

セアカゴケグモの生態系への影響解明と被害防止にむけた普及啓発

セアカゴケグモによる生態系への影響

セアカゴケグモはオーストラリア原産の毒グモで、日本では1995年に大阪で初めて侵入が確認されました。その後都市部や港湾部を中心に分布を広げています。これまで主に人工的な環境で多く見つけていたことから、生態系への影響についてほとんど注目されてきませんでした。海岸砂丘の護岸部におけるセアカゴケグモの生息と、海浜性昆虫への捕食が調査によって明らかになりました。



セアカゴケグモに捕獲されたオオヒョウタンゴミムシ
オオヒョウタンゴミムシは海浜植物群落が広がる砂丘を主な生息場所としており、生息地の減少などの理由から、環境省レッドリストにおいて準絶滅危惧種に指定されています。

また、主な営巣場所として知られていた人工構造物に加えて、砂浜に侵入した外来植物アツバキミガヨランに営巣するセアカゴケグモも新たに観察されました。砂浜への侵入と拡大を防ぐ上では、外来植物の駆除も合わせて行なうことが効果的と考えられます。

一連の研究結果は2015年にApplied Entomology and Zoology誌に発表したほか、生態系への影響拡大防止のための情報提供を、関連自治体に対して行いました。



人工構造物（左）とアツバキミガヨラン（右）での営巣個体

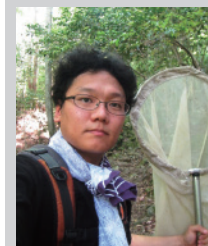


展示やセミナーを通じた普及啓発

2014年には博物館周辺でも生息が確認されました。人への咬傷被害を防ぐために、自治体等からの問い合わせ対応に加え、展示やセミナーを通じて市民向けの普及啓発活動を行っています。今後も、WEB上でのリーフレット配布など周知を進めていく予定です。



博物館内における展示



セアカゴケグモの生態系への影響解明と被害防止にむけた普及啓発
代表者：高木俊
協力者：土岐和多瑠（京都大学）、吉岡明良（国立環境研究所）
財源：研究部予算、外部資金（民間助成金）